

令和6年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名： 熊本県

農業委員会名： 熊本市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和6年4月1日現在)

※ 「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和3年4月15日

任期満了年月日 令和6年4月14日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	24	24
認定農業者	—	15
認定農業者に準ずる者	—	5
女性	—	1
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	48	48	33

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	5,219
農業経営体数	4,105

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	7,086
女性	3,003
40代以下	1,266

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	1,494
基本構想水準到達者	169
認定新規就農者	65
農業参入法人	160
集落営農経営	30
特定農業団体	0
集落営農組織	30

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	7,690	3,080	0	0	0	10,800

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※ 「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1)農地の集積

①現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	10,800 ha	6,504 ha	60.2 %
課題	少子化や農業者の高齢化に伴う担い手不足を解消するため、地域計画(目標地図)を作成し、遊休農地を活用した農地の集積集約化を進めていく必要がある。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

②目標

農地の集積の目標年度	令和11 年度	集積率	80.0 %
今年度の新規集積面積	100 ha	農地面積(C)	10,800 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	6,604 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	61.1 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③実績

今年度の新規集積面積	△ 279.9 ha	農地面積(F)	10,700 ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	6,324.1 ha	今年度末の集積率 (H)=(G)／(F)	59.1 %
目標に対する達成状況(H)／(E)	96.7 %		

農業委員会の 点検結果	集積面積は減少となってしまったが、本年度策定を行った地域計画を今後ブラッシュアップしていきながら、担い手への更なる農地の集積・集約化を進めていく。
----------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2)遊休農地の発生防止・解消

①現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	87.1 ha	31.9 ha	55.2 ha
	人口減少や高齢化に伴う後継者不足により、中山間地域などの農地が耕作不能で遊休農地化しており、今後は農地中間管理機構を活用した遊休農地の解消に努めていく必要がある。		

②目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	52.8 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	10.6 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消		
令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	58.8	ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	耕作可能な農地へと再生できるよう、各地域や関係機関と遊休農地解消に向けた協議を行う必要がある。	

イ 新規発生遊休農地の解消		
前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0.3	ha

③実績

ア 既存遊休農地の解消		
a 緑区分の遊休農地の解消		
今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	4.7	ha
今年度の目標に対する達成状況(D)／(C)	44.8	%

b 黄区分の遊休農地の解消		
黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	国から正式に工程表の様式が示されることはなかったが、熊本県等に策定内容について確認をとりながら、黄区分遊休農地の解消に向けた方向性を示した工程表を作成した。	

イ 新規発生遊休農地の解消		
前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	0.3	ha

④その他

農地の利用状況 調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	令和6年7月～9月		令和6年9月～11月	
	1号遊休農地 の面積	69.4 ha	うち緑区分の遊休農地	26.4 ha
			うち黄区分の遊休農地	43.0 ha
農地の利用意向 調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	令和6年11月～12月		令和6年12月～2月	
農業委員会の 点検結果	緑区分遊休農地の解消については、目標を大きく下回る結果となった。 黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表は、作成を実施することができた。 今後は、緑区分の一層の解消のみでなく、本行程表を基に黄区分の解消を推進し、農地の保全に努 めていきたい。			

(3)新規参入の促進

①現状及び課題				
現状	令和3年度新規参入者		令和4年度新規参入者	
	13	経営体	14	経営体
	21	ha	13	ha
課題	高齢化や人口減少による農家世帯の減少、農業経営の不安定に伴う担い手不足の解消が必要で			

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標				
権利移動面積	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
	138 ha	267 ha	278 ha	228 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積(A)	22.8 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)		0.0	ha
公表URL	—	(その他の公表方法)	—
目標に対する達成状況(B)/(A)		0.0	%
(参考)新規参入者の参入状況	参入経営体数	20	経営体
	取得農地面積	8.0	ha

農業委員会の点検結果	農業従事者の高齢化や後継者不足による離農、農業経営の不安定化に伴う担い手不足の解消が必要であることから、担い手の確保・育成が急務である。そのため、関係機関と連携しながら、地域に根ざした担い手対策を進めていく必要がある。
------------	---

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10	日／月	最適化活動を行う農業委員の人数	23	人
			農地利用最適化推進委員の人数	48	人

(2)活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の内容
7月～9月	農地の集積	農地中間管理機構を活用した集積集約
10月～12月	新規参入の促進	新規参入者フォローアップ
1月～3月	遊休農地の解消	利用意向調査結果を踏まえた調整活動

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の結果
8月～9月	農地の集積	地域計画における協議の場に積極的に参加し、今後の農地の集積・集約等を踏まえた計画の策定に寄与した。
12月～1月	農地の集積	地域計画における協議の場に積極的に参加し、今後の農地の集積・集約等を踏まえた計画の策定に寄与した。
3月	遊休農地の解消	利用意向調査結果を踏まえた調整活動を行った。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間中に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加

①目標

新規参入相談会への参加回数	24回
---------------	-----

開催時期	毎月第2金曜日	相談会名	新規就農・営農相談会
参加者数	12人	開催場所	北区役所内
相談会の内容	中央区・東区・北区内の農地への新規就農者相談会及び新規就農済者の審査会		
開催時期	毎月第4金曜日	相談会名	新規就農・営農相談会
参加者数	12人	開催場所	西区役所内
相談会の内容	西区・南区内の農地への新規就農者相談会及び新規就農済者の審査会		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

②実績

新規参入相談会への参加回数	13回
---------------	-----

開催時期	毎月第2金曜日	相談会名	新規就農・営農相談会
参加者数	12人	開催場所	北区役所内
相談会の内容	中央区・東区・北区内の農地への新規就農者相談会		
開催時期	毎月第4金曜日	相談会名	新規就農・営農相談会
参加者数	9人	開催場所	西区役所内
相談会の内容	西区・南区内の農地への新規就農者相談会		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の評語

目標に対して期待どおりの結果が得られた

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	0
目標に対し期待を上回る結果が得られた	5
目標に対して期待どおりの結果が得られた	65
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	30

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入

Ⅲ 事務の実施状況

都 道 府 県 名： 熊本県
農 業 委 員 会 名： 熊本市農業委員会

1 総会、部会の開催実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考(定例開催以外の理由)
総 会	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4月：農業委員改選に伴う開催

※ 総会又は部会の月ごとの開催回数を記入

2 農地法第3条に基づく許可事務

1年間の処理件数		324 件	うち許可	324 件		
処理期間	実施状況	標準処理期間	申請書受理から	28 日	処理期間(平均)	27 日
	総会開催日の公表	公表している		申請書締切日の公表	公表している	

3 農地転用に関する事務(意見を付して知事への送付)

権限移譲の状況 (当てはまるものに○)	・農地法第4条第1項の規定に基づく指定市町村に指定				
	・地方自治法第252条の17の2第1項に基づき市町村長へ事務委任				
	○	・地方自治法第180条の2に基づき市町村長から農業委員会へ事務委任			
1年間の処理件数	332 件	うち許可相当	332 件	うち不許可相当	0 件
処理期間	標準処理期間	申請書受理から	35 日	処理期間(平均)	29 日

4 違反転用への対応

現 状	管内の農地面積	年度末時点の違反転用面積
	10,700 ha	7.1 ha
違反転用解消のために 実施した活動内容	農地パトロールによる現地確認、指導を行い、悪質な違反者に対しては、今後の指導・勧告について関係部署と協議を実施した。また、日頃から農業委員等による違反転用の早期発見に努め、迅速な現地確認と是正指導を行った。	
実 績	違反転用解消面積 0.3 ha	

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入
※2 違反転用面積は、管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定に違反して転用されている農地の面積を記入
※3 活動内容は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何日何を行ったのか等について具体的に記入